

(1) 入浴前の確認

- ① バイタル測定を行う。次に利用者への声かけによる体調確認、意向確認を行う。  
バイタル測定値の異常や体調不良がある場合は入浴の可否について管理者又は医療職に確認する。
- ② バイタルサインや医療職の指示又はケアプラン・入浴カードに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法(普通浴・シャワー浴など)を選択する。

注意点・声かけ例等

バイタル測定：「〇〇されているところスミマセン。もしよろしければ、血圧を測らせて頂いても宜しいでしょうか？」

意向確認：「〇〇されているところスミマセン。もしよろしければお風呂に入りませんか？」⇒拒否された場合「かしこまりました。では、また今度お声がけいたします」等と一旦離れ、時間・場所・人を変えて再度の声掛けのタイミングをうかがいます。

判断基準：個別のケアプラン又は入浴カードを元に判断しますが、申し送りなどで体調不良があった場合や風邪薬を飲んでいる、転倒事故があった直後、お声がけ時に元気がない等の不調が見られた場合には管理者に入浴の可否を相談すること。

## (2) 衣服の着脱

- ① 体調や気候に配慮した服装の中から利用者に好みの服を選んで頂く。
- ② カーテンや扉、バスタオル等を使い、プライバシーに配慮する。また、ヒートショック予防の為に室温を調整する。
- ③ (必要時) 脱衣の際は、健側から患側の順番で行う。
- ④ ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促す。
- ⑤ 更衣後、着衣にしわやたるみがないか確認する。

## 注意点・声かけ例等

気候や体調、TPOに合わせた衣服を着て頂けるよう必要な支援をします。衣服を選択できない利用者様には介護者が2着用意し、ご本人に選んでもらう。「AとBとどちらがお好みですか？」等

患側：麻痺や痛みがある方、動きが悪い方

介護者が全部行なうのではなく、「ボタンを外して頂けますか？」「腕を袖に通して頂けますか？」など利用者に自分で行なうよう声かけをし、必要時に介助します。

特に車椅子に座った後の背中や腰周り是要確認

### (3) 洗体 (浴槽の出入り)

- ① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗って頂く。
- ② 浴槽に入る時は、利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらうとともに、バランスを崩さないよう身体を支える。
- ③ 簡易リフト、その他の入浴機器を用いて入浴する場合、利用者の身体的位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意する。
- ④ 入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給をし記録する。

### 注意点・声かけ例等

末梢：手や足の先  
陰部などは「前のご自身でお願いできますか？」などご自身で洗って頂けるよう声かけを行なう。必要があれば介助します。  
しわやたるみのある部分は石鹸が残りやすいので入念に流します。  
声かけ例：「では、これから湯船に入りますので、〇〇をしっかりとつかまって頂けますか？」

記録用紙：個人日常記録表

日常記録表には入浴時のご様子、皮膚異常、水分補給の状況（何をどのくらい）を記録する。

## (4) 清拭

- ① バイタル測定を行う。次に利用者への声かけによる体調確認、意向確認を行う。  
バイタル測定値の異常や体調不良がある場合は清拭の可否について管理者又は医療職に確認する。
- ② カーテンや扉、バスタオル等を使い、プライバシーに配慮する。同時に室温の調整、身体の保温を調整する。
- ③ 末梢から中枢の順番で清拭を行う。

## 注意点・声かけ例等

バイタル測定：「〇〇されているところスミマセン。もしよろしければ、血圧を測らせて頂いても宜しいでしょうか？」

意向確認：「〇〇されているところスミマセン。もしよろしければ身体を拭かせて頂けませんか？」